

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第41週 (10/7-10/13) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		41週	40週	39週	38週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	17
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	27	28	28	27
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	10/7-10/13	9/30-10/6	9/23-9/29	9/16-9/22	9/30-10/6
			41週	40週	39週	38週	40週
小児科	RSウイルス感染症		8 0.44	4 0.22	14 0.78	3 0.18	117 0.87
	咽頭結膜熱		1 0.06	2 0.11	5 0.28	4 0.24	24 0.18
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		19 1.06	24 1.33	20 1.11	31 1.82	305 2.26
	感染性胃腸炎	↓	45 2.50	61 3.39	51 2.83	49 2.88	343 2.54
	水痘		0 0.00	0 0.00	2 0.11	4 0.24	31 0.23
	手足口病		28 1.56	42 2.33	53 2.94	48 2.82	322 2.39
	伝染性紅斑		9 0.50	5 0.28	5 0.28	7 0.41	65 0.48
	突発性発しん		9 0.50	11 0.61	9 0.50	9 0.53	54 0.40
	ヘルパンギーナ		9 0.50	14 0.78	11 0.61	8 0.47	105 0.78
	流行性耳下腺炎		1 0.06	1 0.06	5 0.28	3 0.18	13 0.10
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	↓	10 0.37	17 0.61	20 0.71	27 1.00	139 0.65
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎	↓	7 1.40	8 1.60	6 1.20	5 1.00	33 0.94
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		2 2.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	12 1.33
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★: 流行中 ★: やや流行中 ◎: 増加 ○: やや増加 →: 変化なし ↓: やや減少 ↓↓: 減少

2 全数報告対象疾患(9件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	20歳代	病原体等の検出	急性脳炎	男性	10歳代	高熱及び中枢神経症状
腸管出血性 大腸菌感染症	男性	10歳代	病原体の分離・同定 及びベロ毒素の確認	クロイツフェルト・ヤコブ病	男性	70歳代	臨床症状及び脳波検査等
	女性	30歳代		梅毒	男性	30歳代	血清抗体の検出
カルバペネム耐性 腸内細菌科 細菌感染症	女性	70歳代	細菌の分離・同定 及び薬剤耐性の確認	梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出
				百日咳	女性	20歳代	抗体の検出

・第41週は、結核1件(135)、腸管出血性大腸菌感染症2件(16)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(13)、急性脳炎1件(13)、クロイツフェルト・ヤコブ病1件(2)、梅毒2件(29)、百日咳1件(126)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第41週のコメント

＜流行性角結膜炎＞前週より減少し1.40となったが、過去10年の同時期と比べると多い。

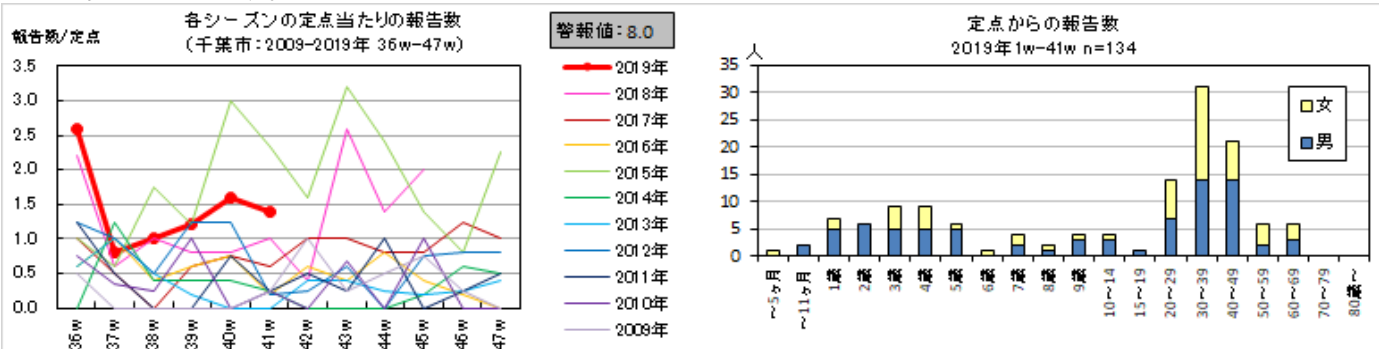
＜感染性胃腸炎＞前週より減少し2.50となった。過去10年の同時期と比べると少なめ。例年の発生動向によると、今後増加する傾向。

＜インフルエンザ＞第38週から連続して減少しており、0.37となった。過去10年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除き最多のまま。

■ トピック ■

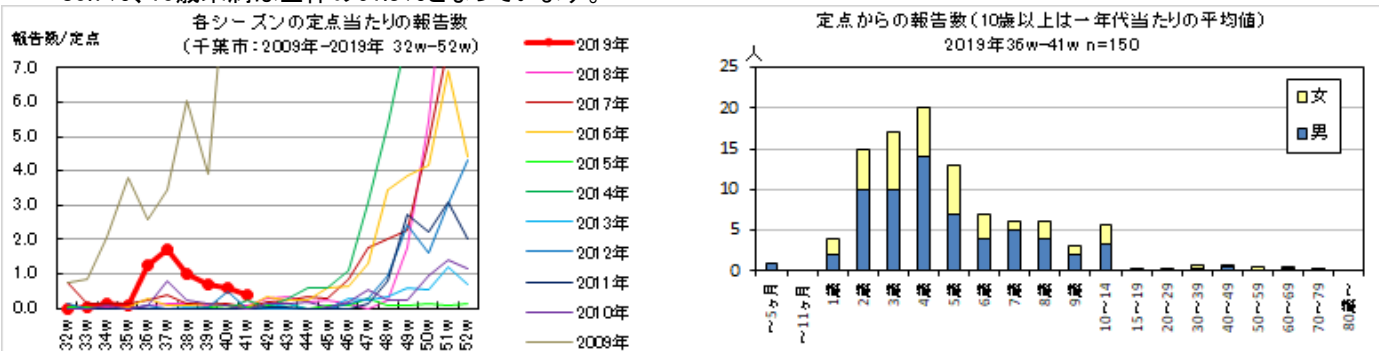
＜流行性角結膜炎＞

全国レベルの第40週の定点当たりの報告数は0.80となり、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では熊本県、鹿児島県、愛媛県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.94で、全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の第41週は前週より減少し1.40となりましたが、過去10年の同時期と比べると多いままとなっています。区別の発生状況は、美浜区(7.0/定点)で最多で、同区の30歳代及び60歳代で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第41週までの累積報告数は134件で、性別では男性が58.2%(78名)、女性が41.8%(56名)となっており、年齢階級別では30歳代(23.1%:31名)、40歳代(15.7%:21名)、20歳代(10.4%:14名)の順で多くなっています。



＜インフルエンザ＞

全国レベルの第40週の定点当たりの報告数は0.99となり、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では沖縄県、鹿児島県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.65で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市では第36週に流行開始の目安とされる1.00を上回った後第38週以降は減少し続けており、第41週は前週より減少し0.37となりましたが、過去10年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除いて最多のままとなっています。区別の発生状況は、緑区(0.8/定点)で最多で、同区の2歳、10歳代前半、30歳代及び60歳代で発生報告があり、一年代当たりでは2歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2019年第36週から第41週までの累積報告数は150件で、性別では男性が58.0%(87名)、女性が42.0%(63名)となっており、年齢階級別では4歳(13.3%:20名)、3歳(11.3%:17名)、2歳(10.0%:15名)の順で多くなっており、20歳未満は全体の80.7%、10歳未満は全体の61.3%となっています。



＜感染性胃腸炎＞

全国レベルの第40週の定点当たりの報告数は3.10で、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では大分県、熊本県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は2.54で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第41週は、前週より減少して2.50となり、過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。例年の発生動向によると、今後増加する傾向となっています。区別の発生状況は、若葉区(6.5/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。若葉区は、過去10年の同時期と比べると、年頭から高い水準で推移しています。今シーズンである2019年第1週から第41週までの累積報告数は335件で、性別では男性が61.8%(207名)、女性が38.2%(128名)となっており、年齢階級別では1歳(23.9%:80名)、2歳(13.4%:45名)、6-11か月(9.6%:32名)の順で多くなっています。

